

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

自走型 急傾斜の畦畔スイスイ

草刈りはロボ任せ

法人が続々導入 人手不足に対応 中国地方の中山間地

中国 中国地方で、水田などの畦畔（けいはん）管理に活躍する草刈りロボットの普及が進んできました。主流はリモコン式の自走型。急傾斜が多く人手不足に悩む中山間地では、除草作業が大きな負担となっています。労力軽減に加え、安全に作業できるため、集落営農法人などで導入が広がっています。

驚きの声が上がりました。

法人が管理する27ヘクタールのうち、畦畔は5ヘクタール。錦織満代表は「大半が急傾斜で、作業は足腰に相当な負担が掛かる。安全と省力化を実現する有力な手段だ」と評価します。

山口市の農事組合法人川西は今年、自走型の草刈り機を導入しました。農地の受託面積は年々増え、2009年の30ヘクタールから17年は150ヘクタールに達し、規模拡大に対応するためです。さらに、スマート農業によりビジネスの拡大を目指します。15、17年に1人ずつ20代を雇用し、ドローン（小型無人飛行機）防除とともに

島根県雲南市の農事組合法人すがや。8月下旬、組合員がドイツ製のリモコン式自走型草刈り機「aria 9600」の実演を見守りました。刈り幅は1メートル

12センチ、刈り高は5センチで、最大傾斜50度まで作業が可能。横15メートル縦10メートルで傾斜40度を優に超す畦畔が、20分ほどできれいに。あまりの早さに、



40度を超える急傾斜をすいすいと進む自走型草刈り機（島根県雲南市で）

豚コレラ

今が旬
この言葉

豚コレラ

豚とイノシシが感染するウイルス性の家畜伝染病です。急性型は高熱や食欲不振の他、耳などに紫斑が出て、短期間で死亡してしまいます。1992年に熊本での発生後、07年に清浄化を達成し、15年にOIE（国際獣疫事務局）から清浄国認定を受けました。9月上旬、岐阜で豚コレラの発生が確認されました。9月19日現在、新たに豚への感染は確認されていませんが、引き続き警戒が必要です。

に、ロボット草刈り機による作業受託を担います。小林紀代士代表は「オペレーターの世代交代を進めながら、新技術を活用して周年の仕事と収入を生み出す。防除と除草の作業受託を広げたい」と展望を語ります。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

肥効調節型肥料で面倒な追肥の手間を解消 硬質小麦「ニシノカオリ」の安定生産を後押し

三重県農業研究所は、硬質小麦の栽培に適した肥効調節型肥料を開発しました。この肥料を基肥として使うと、これまで行っていた3回の追肥を省いても従来と同じ収量・品質を保つことができ、硬質小麦の栽培の省力化が期待できます。

肥効調節型肥料の窒素成分は、速効性肥料と30日タイプのシグモイド型緩効性肥料、および20日タイプのリニア型緩効性

肥料を1…2…2の割合で配合しました。リニア型は播種（はしめ）後から全生育期間にわたって、シグモイド型は幼穂形成期以降から、窒素が溶出します。そのため、肥効が持続し、追肥の手間を省くことができます。

施肥量は、慣行施肥体系の総施用窒素量（基肥＋追肥）と同じ量を基肥として与えます。

暖冬多雨年など、出穂期の葉



硬質小麦に適した肥効調節型肥料「小麦専科32」の製品パッケージ

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359
中央農業改良普及センター 地域農業推進課 ☎ 0598-42-6323

県内NEWS

(日本農業新聞より)

■JA一志東部

児童が梨収穫体験 地元特産物に笑顔

津市の香良洲小学校の全校児童約220人は8月中旬、JA一志東部香良洲梨部会が提供する体験農園で、特産「香良洲梨」の収穫作業を体験した。産地維持を目的に部会有志で結成した「香良洲梨かがやきプロジェクト」の一環として行っており、今年で13回目。今年7月末の台風12号と連日の猛暑の影響で収穫量が3割程減ったものの、小ぶりながら甘味の強い梨に仕上がった。川口招伯営農指導員は「悪天候に負けず、一生懸命育った梨です。大事に収穫しましょう」と呼び掛けた。

(2018/8/31 ワイド2東海)

■JA多気郡

新米予約 ファンどっと

JA多気郡は9月上旬の2日間、明和営農センターで新米まつりを開いた。会場で1年分の米を予約販売し、その場で取れたての米の持ち帰りができる。地元はもちろん、名古屋や大阪からも買い求めに来る中、今年の予約販売件数約450件の9割強がリピーターだった。米を求める客や「ぎんひめ」「ミルキークイーン」のおにぎりを試食する客で、朝から人だかりができた。(2018/9/8 ワイド1東海 静岡・三重)

■JA三重南紀

南紀みかん輸出拡大へ

三重県産ミカンの輸出拡大に向けて県は8月28日、御浜町で「南紀みかん産地拡大宣言」の署名式を行い、宮腰光寛首相補佐官の立ち会いの元、地元JAや自治体など産地関係者が宣言書に署名した。タイ向け輸出の拡大や新たな流通体制の構築などを通じて、「日本一のかんきつ輸出対応産地」を目指していく。主産地のJA三重南紀は2010年から、全国でも数少ないタイへの輸出に取り組んでいる。8月上旬には、県と、ミカンを栽培する金山パイロットファーム(熊野市)、JA全農インターナショナルなどで、三重みかん輸出産地形成プロジェクトを発足。紀南地域からのタイ向けの目標は今年度が60トン、3年後に120トンとしている。(2018/8/29 ワイド1東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

実質保証料

0円

当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年 0.2%
---------------------	---	-----------------------------	---	------------------

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年9月現在